

地区防災訓練企画担当者向けの  
防災訓練  
ポイントBOOK

令和5年3月  
茅ヶ崎市防災対策課



# はじめに

## ● 防災訓練の企画・検討を進める上での手引書として

- 地区防災訓練（自治会連合会やまちぢから協議会等が実施する防災訓練）の企画担当を任されたものの、「何から手を付けたらよいかわからない」「どのように訓練を企画・準備したらよいだろうか」といった訓練企画担当初心者向けに、訓練を企画・検討する上で必要となる基本的な考え方や進め方等を解説しています。
- 「対象者」や「目的」に応じた訓練の考え方や取り組み事例等を紹介しています。
- 「いつも同じような訓練でいいのだろうか?」「訓練内容がマンネリ化している」といった悩みの解消に向け、様々な訓練メニューを紹介しています。

## ● 防災訓練を通じて地域防災力の更なる向上を目指して

- 防災訓練を通じて自主防災組織の役割や活動手順の確認等を行い、組織活動のさらなる向上につなげていきましょう。
- これまでの訓練の「よいところ」は継続し、「変えるべきところ」は見直し、「新たな視点」を取り入れて、より効果的で地域の実情に応じた訓練を目指しましょう。
- 地域の絆と交流促進を通じ、地域活動の活性化を目指しましょう。
- 自助は最大の共助です。  
「自助の促進」を通じ隣近所や地域内の「共助活動の推進」を目指しましょう。

## 構成

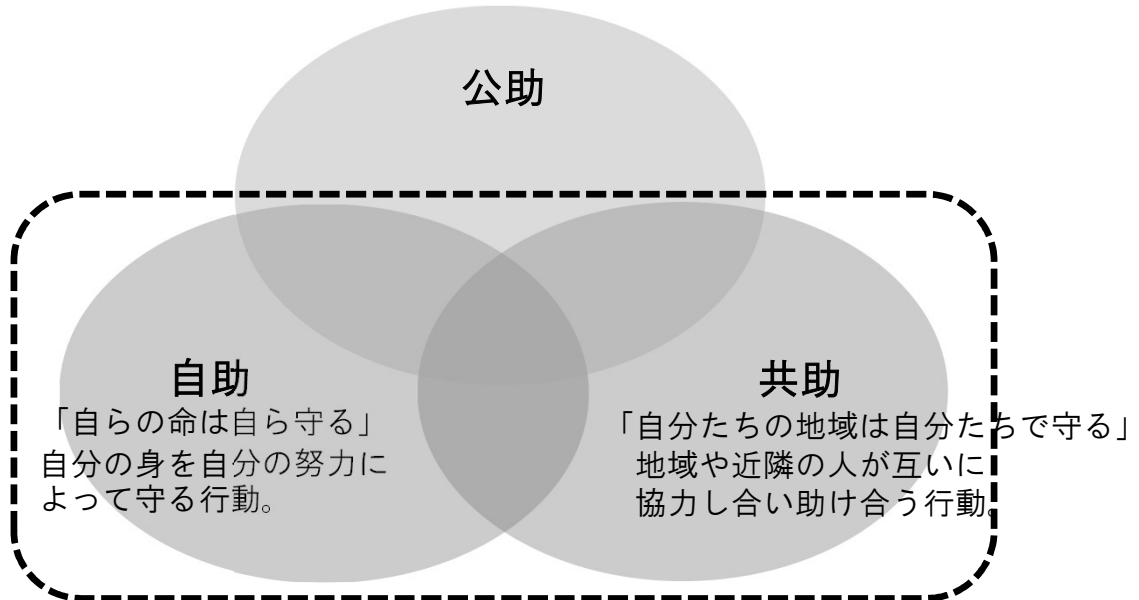
- 1 防災訓練の必要性を知る ..... 1ページ  
防災訓練の必要性をあらためて認識しましょう！
- 2 防災訓練を企画・実施するための「5ステップ」 ..... 3ページ  
防災訓練を企画～実施する際に必要なことを5つのステップに分けて解説。  
訓練に係る一連の流れを確認しましょう！
- 3 防災訓練メニュー ..... 16ページ  
個別訓練を目的毎に分類し概要を紹介しています。  
訓練の方向性を踏まえ、どのような訓練を行うか本メニューを参考にしましょう！
- 4 地区防災訓練への支援 ..... 33ページ  
訓練実施に向けた支援や補助金の概要等を紹介しています。  
訓練企画に合わせて市の支援についても確認しましょう！
- 5 自主防災組織が実施する訓練等への支援 ..... 34ページ  
自主防災組織等が実施する訓練等への支援などについて紹介しています。  
地域の取り組みの参考にしてください。
- 6 令和4年度 地区防災訓練事例集 ..... 38ページ  
令和4年度に実施した地区防災訓練について紹介しています。

# 1 防災訓練の必要性を知る

## どうして防災訓練を実施するの？

### 減災への取り組み

「災害が発生してもその被害を最小限におさえるために」



### 家庭や地域の防災活動

自らの命を守り、家族を守り、隣近所で助け合い、地域を守る

家族や大切な人を守る

ためには

自分自身が無事である

ことが重要！

日頃からの備えの充実  
防災意識の向上

地域を守る・助け合う

ためには

地域内のつながり、顔の見える関係

が重要！

日頃のコミュニティづくり  
地域防災力の向上

「防災意識の向上」や「地域防災力の向上」を目指して！

## (参考) 地区防災訓練の現状と課題、今後の方向性

### 防災訓練の現状・課題

#### (現状)

- 地区毎に年に1日を設定し、主に学校を会場に次のような訓練を実施
- 住民の防災意識啓発や組織活動の向上をあわせた訓練
- 地域の災害活動や避難所運営を想定した訓練
- 複数班に分かれローテーションによる体験型の訓練

#### 地域の訓練企画担当者の声

- 「訓練内容のマンネリ化」
- 「訓練参加者の固定化、若い世代の参加が少ない」
- 「訓練担当者の負担感、成果・やりがいを感じにくい」

#### (課題)

- 訓練内容の見直し・改善
- 多くの住民の参加・多世代の方の参加促進
- 障がい者や高齢者など、地域の様々な方の参加促進
- 参加者の満足感、企画担当者の達成感を得られるような企画＝訓練成果の向上



## 訓練企画のポイントと今後の方向性

### 地区の課題を考える！

Point

訓練の「対象」「目的」を明確に！  
上記を踏まえ、地区ごとに自由な発想で訓練を企画！！

New

イベント型の防災訓練や図上訓練も地区防災訓練の対象に！  
対象者ごと（住民 or 防災関係者）の訓練を同年度内に別日程  
で実施、隔年で交互に実施するなど、柔軟な取り組みを！

- 地区が主催し、同一年度内に複数の訓練を実施する場合、それぞれの訓練に要した経費の総額を補助対象<sup>(※)</sup>とします。

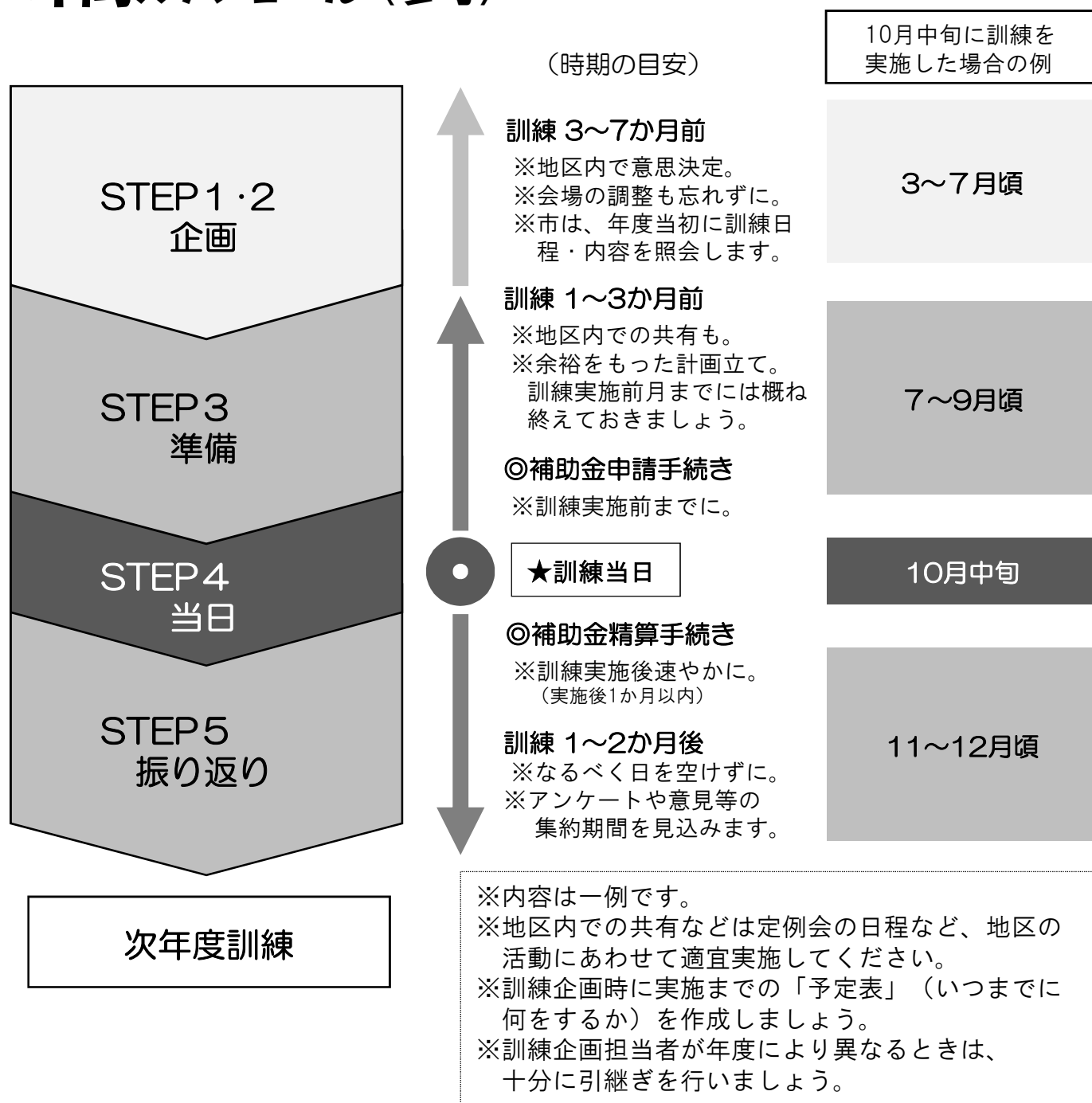
※複数の訓練を企画する場合は、年度当初に照会する防災訓練実施予定日に年間の訓練計画表を添えて提出してください。

※対象者ごとにそれぞれの訓練を実施する場合は、できる限り別日程で開催しましょう。（対象者によって、目的や内容等が異なるため）

※補助対象：自治会連合会または認定コミュニティ（まちぢから協議会）が主催する防災訓練

## 2 防災訓練を企画・実施するための「5ステップ」

### 年間スケジュール（参考）



#### お知らせ

- 年度当初に、市から各地区へ防災訓練実施予定日を照会します。できる限り早い段階で、訓練の大枠や日程（候補日）を決めましょう。※職員の派遣や限られた訓練種目（地震体験・濃煙避難体験等）の実施に際し、各地区の訓練日程が重ならないよう、調整させていただくためです。
- 訓練補助金については、年度当初にまちぢから協議会会長（または自治会連合会会長）へ案内を送付します。手続きもれのないようご注意ください。



# STEP 1 企画① (年度のはじめ頃)

目標：訓練の方向性を決める！

## 訓練企画を担う 担当者を決める

- できる限り女性や若い世代等の視点を取り込みましょう。
- 担当者に任せきりにせず、地区全体で取り組むことが大切です。

## 訓練の日程・会場を決める

- いつ、どこで、どんな内容の訓練を行うか？
- 適した会場はどこか？
- 住民参加型は多くの人が集まれる場所、組織活動促進型は災害活動拠点などの実際の災害活動を踏まえた場所を会場にしましょう。

会場選定は、本来、訓練の内容の検討とあわせて、企画する訓練の実効性が高い会場を確保することが望ましいところですが、多くの場合、会場確保が先行されていることが多いと思います。そうしたことを改善するためにも、複数年先の訓練を計画しておくことも一つの方法です。

→ ⑤⑥ページを参考に！



## 課題を踏まえて訓練を企画 対象者・目的等を明確に

- 地域住民の防災意識の向上を目指すか、地区内の各組織の活動促進を目指すか、訓練の方向性を決めます。
- 訓練は、地区の課題や災害特性を踏まえた内容が望ましい。

## 訓練までにやるべきことを リストアップ

- 担当者での打合せ日程(適宜)
- 地区全体での共有・打合せ(適宜)
- 会場の使用手続き(仮予約～本申請)
- 関係者への出席依頼(事前相談～本依頼)
- 市への補助金申請手続き(訓練実施までに)
- 使用資機材の調達(内容が決まったら早めに)
- 住民への案内・チラシ作成



## 企画①のポイント

まずは、対象者や目的を明確にすること。

「防災訓練を通じて、参加者にどのようなことを得てもらいたいのか、

地域としてどのような成果を求めるか」目的を検討し、

目的を達成するためにどのような訓練を行うのが良いかを地区の中で考えていきましょう。

その次に、訓練を実施するためにやるべきことをリストアップします。

特に、訓練会場の選定は、訓練を安全に実施するため、また、訓練目的を達成するために大変重要になります。



課題を踏まえて訓練を企画 対象者・目的等を明確に

## 防災訓練で「自助」「共助」の力をパワーアップ!!

平常時及び災害時において「自らが何をすべきか」を考え災害に対して十分な備えを行う

### 住民の防災意識をパワーアップ!

(対象)  
地域住民

(目的)  
住民一人ひとりの防災意識の向上を通じて、「自助」「共助」の推進につなげる。

### 組織活動をパワーアップ!

(対象)  
防災関係者  
(自主防災組織役員・防災リーダー等)

(目的)  
災害による被害・影響を最小限に抑えるために「自分たちの地域は自分たちで守る」共助活動の理念に基づく「助け合い活動」の効果を高める。

### 防災訓練企画のPoint!

地域の「課題」を踏まえ、「対象」「目的」を明確にする

地域にどのような「課題」があり、「誰に対して」「何のために」「どのような」訓練を行うか。訓練を通じて、どのような「成果」を目指すか。

**A**

地域住民を対象とした  
防災意識を啓発するための  
防災訓練・防災イベント

**B**

防災関係者を対象とした  
組織活動を促進するための  
防災訓練

地区防災訓練は対象や目的等により大きく2つに分けられます

↓  
地域が抱える課題を踏まえ防災訓練を実施しましょう!



# Point 1 地域の課題は？

地域の「課題」を踏まえ、  
どのような訓練を行うかを検討しましょう。



地域の課題は？

住民の意識を高めたい

組織活動を強化したい



地域には様々な課題があると思います。

課題を踏まえ、数年間の防災訓練を計画するのもよいでしょう！  
現状把握や課題抽出のために、アンケートをとるのも効果的です。

# Point 2 訓練の対象と目的は？

(課題・目的)		意識啓発			知識向上 技術習得			組織力向上		
		(訓練種別)								
A 住民 の 防災意識を啓発 するための 防災訓練	① イベント型 訓練	イベント型で開催し子供からご年配の方、障がい者など誰もが参加しやすく楽しみながら防災意識を高める訓練								
	② 個別訓練	消火や救助・救出方法や資機材の取り扱い方法等について個々に学び、知識や技術を習得するための訓練								
B 組織 活動を促進する ための 防災訓練	③ 活動型訓練	災害時に想定される活動の一連の流れを体験し、知識や技術の習得と合わせ必要な体制等を検証するための訓練								
	④ 図上訓練	防災教材等を用いて、地域内や避難所等における組織活動を疑似的に体験し、災害時の対応方法等を検証するための訓練								
		自助			共助					

## STEP 2 企画② (訓練の数か月前頃)

目標：訓練の概要を  
決める！

16ページ以降を  
参考に！



### 訓練概要をまとめる

- 訓練メニューを参考にどのような訓練を実施するか検討します。
- 地区内での認識共有、関係者等との打ち合わせなどに向け、訓練概要をまとめます。
- 実施する訓練の災害想定や訓練設定を明確にします。



### 使用する資機材を リストアップ

- 訓練メニューを参考に必要な資機材を確認。
- できる限り地域で所有する資機材の活用を心掛けてください。
- 市の資機材を借用する場合は事前に相談してください。
- 地震体験や濃煙避難体験は各1台しかないため、他の地区と調整が必要となる場合があります。

### 防災対策課との打合せ

- 訓練の方向性、概要等が整理されたら、市(防災対策課)と調整をはじめます。
- ※防災対策課との調整は、内容が概ね決まってから、訓練の具体化・実施方法等の検討・調整を目的に行います。
- ※自主的な訓練を行うためにも、訓練の概要はできるかぎり地区において検討いただくことを基本としています。

### 各種手続き確認

- あらかじめ必要な手続きをリストアップ。
- 書類の提出等、申請手続きが必要なものは事前によく確認しておきましょう。

(主な手続き例)

- 訓練指導者等の派遣申請
- 関係者等の参加調整
- 訓練会場使用手続き
- 市への「訓練補助金」申請手続き
- 資機材借用依頼

### 訓練指導者の確保

- 訓練内容に応じた指導役を確保します。
- できる限り防災リーダーが指導役を担いましょう。



### 企画②のポイント

まずは訓練の概要等をまとめます。

(自主的な訓練を行うためにも、できる限り地域の皆様に検討していきましょう。)

※企画にお困りの際はいつでもご相談ください。

実施する訓練内容は「3防災訓練メニュー」を参考にしてください。

前のステップで作成した「やるべきことリスト」をもとに必要な手続きを済ませます。

⑦ 訓練指導者や資機材は、できる限り地域の中で確保しましょう。



# 訓練概要をまとめる

(書式に決まりはありません。)

## 【地区防災訓練企画概要】

(例)

### ① 日程 (予定)

\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日 (午前・午後)

### ② 会場 (予定)

(\_\_\_\_\_)

### ③ 訓練の対象とする課題

(\_\_\_\_\_)

### ④ 訓練の対象者

- 住民
- 防災関係者 (自主防災組織役員、防災リーダー)

### ⑤ 訓練の目的

- A : 住民の防災意識を啓発するため
- B : 組織活動を促進するための訓練

### ⑥ 訓練種別

- A-① イベント型訓練       A-② 個別訓練
- B-③ 活動型訓練           B-④ 図上訓練

### ⑦ 想定する災害

- 地震     風水害     備考 (\_\_\_\_\_)

### ⑧ 実施したい訓練内容 (メニュー)

### ⑨ その他 (訓練企画上の特記事項、備考)

# STEP 3 準備 (訓練3か月前頃～直前頃)

目標：訓練の詳細を  
まとめる！

## 訓練当日のスケジュール

- 訓練内容に応じ概ね半日に収まるように時間設定します。

イメージ→

スケジュール	本部・運営	一般参加
9:00 会場設営・準備	集合・準備	
10:00 開会 (ながれ・注意事項)	進行	集合
10:10 訓練開始 (90分)	↓	訓練
11:40 訓練終了	↓	↓
11:50 閉会 (講評等)	↓	↓
12:00 解散～撤収	片付け・清掃	解散
12:30 完全撤収	解散	



## 訓練実施計画の作成

- 訓練の目的・内容・スケジュール等を示した「実施計画」を作成します。
- 関係機関、必要資機材等のほか、運営者・参加者の動き等も明記します。
- 担当者との打合せにも必要です。

## 各種手続き

- 手続き漏れのないように注意しましょう。
  - 市への補助金申請手続きも忘れずに。
- ※企画段階で、必要手続きをリストアップして「いつまでに」「どんな手続きが必要か」整理しておくといでしょう。

## 訓練使用資機材の点検

- 訓練で使用する資機材が正常に使用できるか確認しましょう。
- 訓練のためでなく、災害時に備え日頃から点検や動作確認を心掛けましょう。

## 住民周知



- 「訓練開催のお知らせ」「参加お願い」を作成
  - SNSを活用した情報発信も効果的。
  - 掲示・回覧のほか、チラシの配架、関係機関へも周知の協力をお願いしましょう。
- ※特に住民啓発型の訓練は、開催チラシ等による呼びかけが重要です。



## 準備のポイント

「訓練実施計画」は、運営者・関係者・参加者それぞれが共通の理解のもと訓練に参加するためにも大変重要な役割を果たします。

(特に組織活動促進型の訓練は、想定や役割等について認識を共有することが大切です。)

指導者との調整や各役割担当者との打ち合わせもしっかり行います。

- 9 住民を対象とした防災訓練は「参加してみよう」と思わせる周知・広報が大切です。



# 住民周知の参考例

## 第10回 防災フェア

日時 平成27年5月17日(日) 10:00~13:00

会場 クレストシティタワーズ前広場  
※雨天の場合は2・3丁目合同会館で行います

体験・学習コーナー

- 神奈川消防署 起震車体験
- 古川病院 健康相談
- 新子安地域ケアプラザ ども防災体験コーナー
- てごころ鍼灸整骨院・整体院 災害時の体調管理ストレッチ
- スタンプラリー ● 家庭防災員によるホットタオル実習
- 三丁目防災学習コーナー・命のハンカチPR

ステージ

- 10:15~ 太陽の子 新子安保育園 よい子の防災紙芝居
- 10:50~ 災害時の食セミナー 講師 鈴木 佳世子 氏 料理研究家 食生活アドバイザー(防災担当)
- 12:00~ 神奈川消防署 AED・水消火器体験

試食・販売コーナー

- 炊き出し 餅汁
- 浦島共同作業所 クッキー販売
- 横浜野菜直売
- パン・ケチャップ販売

主催 子安通三丁目自治会・自主防災会  
協賛 神奈川消防署浦田消防出張所 神奈川区役所 古川病院 新子安地域ケアプラザ 太陽の子 新子安保育園 てごころ鍼灸整骨院・整体院 浦島共同作業所

## 第4回 町内 オリエンテーリング!

お隣の'まち'をあるいてみよう!  
新しい発見に出会えるかも!!  
※一本松防災拠点備蓄庫見学します。

集合場所  
西戸部二丁目第一町内:西2公園  
羽沢西部町内:羽沢稲荷前

日時:6月22日(日)  
午前10:00集合~正午12:00  
大勢のご参加お待ちしております。

※ マップは、当日お配りします。  
平成26年 6月10日 一本松まちづくり協議会

# 備えて ますか?

朝焼けが見られるかも!?  
アウトドア体験が盛りだくさん! 朝焼けは9時前後まで見られます。

開催決定 10/18-19

防災、はじめよう! 親子で体験 防災カステップアップキャンプ

会場: 野毛山公園 芝生広場  
18日 10時~13時 / 19日 10時~13時

supported by STEPCAMP

私たちと楽しみながら備えませんか?

キャンプの開催は、そのまま災害時のいざという時に役立つものばかりです。野毛山公園で、普段は絶対に出来ないキャンプのあれこれを楽しみながら、防災力をステップアップしましょう!

テントに寝る体験、アウトドアの楽しみ、防災グッズの体験、防災グッズの体験、防災グッズの体験

## 対象 第1町内会・第2町内会全戸

発行日 平成27年11月2日

# 白または黄色いタオルなどを使った 災害時安否確認・避難訓練

※訓練は、教習やずり回車で参加ください。

昨年実施した白いタオルなどを使った安否確認訓練では、「タオル利用率49%」と大きな成果を挙げることができた。しかし、今回はまだ十分とは言えず、繰り返しの訓練が必要と考えられます。また、同様に昨年度の訓練で実践したスタンドパイプ式初期消火器具については、今年度、町内会で個人を、今後も住民一人一人が使えることが大切になっていきます。繰り返しの訓練を行い、からでで見えることで、いざという時に備えましょう!

11月28日(土) 9:00~12:00

小雨決行 ※雨天の場合、訓練が一部は上合会館で行います。直接会場までおいでください。

訓練① 白または黄色いタオルなどを使った災害時安否確認訓練

訓練方法 当日午前9時までに、無事ならば道路から見える玄関先やベランダ等に白または黄色いタオルなどを掲げてください。

当日留守の場合 留守の方は、お出がけの際に白いタオルなどを玄関先に掲げてお出がけください。

訓練の終了 掲げたタオルは、10時半以降にお戻しください。

訓練② 防災巾着を使った避難時安全への備え

訓練③ 毛布を使った避難時安否確認訓練

訓練④ スタンドパイプ式初期消火器具の使い方を体験

かまどツールを使った火おこしデモンstrーションも実施!!





# 訓練実施計画を作成する

(書式に決まりはありません。)

## 【〇〇地区防災訓練実施計画】

(例)

### 1 目的

- A：住民の防災意識を啓発するため  
( )
- B：組織活動を促進するための訓練  
( )

(訓練種別)

- A-① イベント型訓練       A-② 個別訓練
- B-③ 活動型訓練           B-④ 図上訓練

### 2 対象者

- 住民
- 防災関係者(自主防災組織役員、防災リーダー)

### 3 日時

\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日(\_\_\_\_時\_\_\_\_分から\_\_\_\_時\_\_\_\_分まで)

### 4 会場

( )

### 5 訓練上想定する災害の概要

- 地震       風水害
- 詳細設定( )  
※訓練上の災害を設定する際は、災害の規模のほか、日時や気候等の状況も考慮。

### 6 内容・指導員・資機材

※訓練目的・種別を達成するための個々の訓練メニュー

- 訓練名称( )  
(指導員：\_\_\_\_、必要資機材\_\_\_\_、場所\_\_\_\_)  
(訓練目標：\_\_\_\_)
- 訓練名称( )  
(指導員：\_\_\_\_、必要資機材\_\_\_\_、場所\_\_\_\_)  
(訓練目標：\_\_\_\_)
- 訓練名称( )  
(指導員：\_\_\_\_、必要資機材\_\_\_\_、場所\_\_\_\_)  
(訓練目標：\_\_\_\_)

※各個別訓練を実施するにあたり、必要な内容を整理する。  
指導役や必要資機材、訓練場所のほか、個々の訓練の目標を示すとなお良い。

### 7 参加予定者

参加予定者の内訳

(訓練対象者・運営者・協力者等、訓練に関わる全体の人数等を整理する)

※人数のほか、性別や年齢層(一般、小中高生、高齢者)、要配慮者(障がい者)などを整理する

※関係者：地域(防災役員、自主防災組織、防災リーダー)、消防団、学校、市、その他

## 8 スケジュール

### (1) 全体

スケジュール	本部・運営	一般参加
9:00 会場設営・準備 10:00 開会（ながれ・注意事項） 10:10 訓練開始（90分） 11:40 訓練終了 11:50 閉会（講評等） 12:00 解散～撤収 12:30 完全撤収	集合・準備 進行 ↓ ↓ ↓ 片付け・清掃 解散	集合 訓練 ↓ ↓ 解散

### (2) 訓練詳細（ローテーション型個別訓練の例）

スケジュール	A班	B班	C班
10:10～10:40	訓練①	訓練②	訓練③
10:40～11:10	訓練②	訓練③	訓練①
11:10～11:40	訓練③	訓練①	訓練②

※あらかじめ参加者を3つのグループ（A班、B班、C班）に分ける。

※移動を考慮する。（タイムキーパー・誘導員）

## 9 役割

役割	自主防災組織・名前	自主防災組織・名前	自主防災組織・名前
総括			
進行			
受付			
誘導			
訓練①			
訓練②			
訓練③			

※訓練に応じ、必要な役割を想定し分担する。準備段階での役割分担等も必要。

## 10 主催

〇〇地区まちぢから協議会

# STEP 4 当日

目標：安全に訓練を実施する！

## 会場準備

- 訓練実施計画に基づき、役割や活動、タイムスケジュール等を確認。
- 運営者・関係者による認識の共有。
- 参加者の安全確保・ケガや事故の発生に十分に注意し、予防に努めましょう。

## 進行・安全管理

- 「本部」「誘導」「安全管理」「指導役」など、訓練項目に応じた役割を明確に。
- 役割は事前に決めて、各々が自分の役割を十分に認識しましょう。
- 訓練中は、振り返りや検証のためにも写真や記録をとりましょう。

## 注意事項などの共有

- 訓練参加者自身も事故やけがの防止に努めるよう適宜案内しましょう。
- 熱中症の予防等、当日の気象状況を踏まえた対策も講じましょう。
- 事故が起きたときの対応等も事前に整理しておきましょう。

## 出席・参加者確認

(運営者・関係機関・訓練指導者・一般参加者)

- 受付を行い、当日の出席者や参加者を把握します。
- 事故が起きたときのためにも、参加者の把握はしっかり行いましょう。

## アンケート

- アンケートは次の訓練の企画に大変重要な情報です。
- 訓練後には「アンケート」を実施し、参加者の率直な意見や感想を把握しましょう。
- 参加者のみならず、運営者・関係者からもアンケートをとります。
- アンケート例  
(選択式)  
 お住まいの地区(自治会)     年代  
 訓練参加のきっかけ     参加回数  
 誰と参加したか     参加した種目  
 最も役立った訓練は  
(記述式)  
 今後取り入れてほしいこと  
 訓練開催にあたり気付いたこと、改善点等



## 当日のポイント

訓練当日は、参加者の安全を第一に活動します。  
企画どおりに進まない場合もありますが、訓練中は課題や改善点等として記録します。  
運営者は、その要因なども考察しておきましょう。

⑬ 次年度の訓練につなげるためにもアンケートをとりましょう。



# 訓練の様子



ちがさき備えるフェアの取り組み例

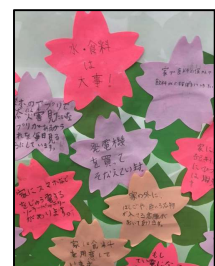
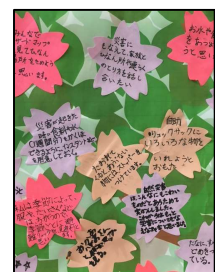
### げんさい(減災)の木

各家庭等における災害に備えた取組を募集しています。あなたの自助の取組をぜひ教えてください。あなたの備えが誰かの備えにつながり、市全体の防災力の向上につながります。

**自助の取組をひろげる**

- ①花びらのふせんに、ご家庭の災害への備え(自助の取組)を1つ記入  
※すでに取り組んでいることのほか、今後取り組もうとしていることでもOK!
- ②取組を記入した花びらのふせんを、「げんさいの木」に貼り付ける

地域の方に紹介いただいた取り組みを備えるフェアで実践しました。



## STEP 5 振り返り

目標：次回の訓練に向けて！

### 意見・感想のとりまとめ

- 運営に携わった方、関係者、参加者などそれぞれの意見や気づきを整理します。
- 訓練に関わった多くの方々の意見を大切にしましょう。

### 反省・振り返り (意見交換の場の設定)

- 訓練実施後、なるべく日を空けずに、関係者が集まる機会を設定。
- 意見や感想のとりまとめ結果をもとに良かった点や改善点等を話し合いましょ。
- 多くの意見を取り入れられるよう、気軽に発言できるような工夫を。
- 小さな気づきが重要なヒントになる場合も。

### 課題を踏まえ 次年度の訓練の方向性を検討



- 改善策を次年度訓練に反映させる方法を検討します。
- 次年度の訓練企画担当者が変わる場合は、こうした改善点等の引継ぎもしっかりと行いましょう。

### 訓練結果を発信

- 地域住民や訓練に参加いただいた方向けに、訓練の様子や次回の訓練に向けた課題等を報告しましょう。
- 単に参加者数や訓練風景を掲載するのではなく、訓練に参加しなかった方が「次は参加してみよう」と思うような紙面づくりを心がけましょ。
- SNSやホームページでの発信も効果的です。



### 振り返りのポイント

訓練企画担当者のねぎらいは忘れずに。

振り返りは、訓練に使用した活動マニュアルや体制等の検証のほか、次の訓練を見据えて実施します。

訓練は継続性が重要です。

その回限りで終わらせることなく、課題の検証・実施方法等の改善を繰り返し実施していくことが大切です。



[P：計画] ▶ [D：実施] ▶ [C：評価] ▶ [A：改善]

### 3 防災訓練メニュー

	訓練名称	①イベント型訓練	②個別訓練	③活動型訓練	④図上訓練	掲載ページ
<b>Menu 1 防災意識の啓発</b>						
1-1	防災講座	○	○			⑱
1-2	防災資機材・防災用品等の展示・紹介	○	○			⑱
1-3	防災マップ・啓発紙等の作成		○	○		⑳
1-4	クロスロード		○		○	⑳
<b>Menu 2 自分の身を守る方法を知る</b>						
2-1	地震体験	○	○			㉑
2-2	濃煙避難体験	○	○			㉑
2-3	マイ・タイムライン作成訓練	○	○			㉒
2-4	E V A G（避難行動訓練）		○		○	㉒
<b>Menu 3 助ける方法を知る</b>						
3-1	救助・救出訓練	○	○	○		㉓
3-2	搬送訓練	○	○	○		㉓
3-3	応急手当訓練①（心肺蘇生法等）	○	○	○		㉔
3-4	応急手当訓練②（外傷等の応急手当法等）	○	○	○		㉔
3-5	消火訓練①（移動式ホース格納箱）	○	○	○		㉕
3-6	消火訓練②（消火器）	○	○	○		㉕
<b>Menu 4 組織活動を高める</b>						
4-1	イメージT E N（自主防災組織災害対応訓練）				○	㉖
4-2	情報収集・受伝達訓練		○	○		㉖
4-3	安否確認訓練		○	○		㉗
4-4	安否・被害状況等確認訓練			○		㉗
<b>Menu 5 地域で助け合う仕組み作り</b>						
5-1	避難行動要支援者避難支援訓練（避難誘導支援）		○	○		㉘
5-2	避難行動要支援者避難支援訓練（避難生活支援）		○	○		㉘
<b>Menu 6 避難所での防災活動</b>						
6-1	避難所開設・運営訓練			○		㉙
6-2	避難所運営ゲーム（HUG）				○	㉙
6-3	避難所生活体験訓練	○	○			㉚
6-4	避難所資機材取り扱い訓練		○	○		㉚
6-5	避難所での応急トイレ対策訓練		○	○		㉛
6-6	避難所での応急給水訓練		○	○		㉛
6-7	避難所での炊き出し訓練	○	○	○		㉜

★紹介している訓練は一例です。記載のない訓練も実施可能。企画の際は、ご相談ください。





# (参考) どんな防災訓練を実施するか考えよう!

## A 地域住民等を対象とした訓練 (例)



### ① イベント型訓練

訓練の目的
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害への備えの必要性を「自分事」として認識してもらう。</li> <li>● 家庭での備えについて必要な取り組みを実行できるようにする。</li> <li>● 体験型訓練を通じて「身近なもの」「自分でもできること」「必要なこと」として認識してもらう。</li> </ul>

企画のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 訓練という形にこだわらない、参加型の「イベント」として企画。</li> <li>☑ 多くの住民に参加していただけるよう「楽しく」「簡単」な体験型。</li> <li>☑ 家庭の備えに必要な物品や備蓄品等の展示・紹介。</li> <li>☑ お祭りや他の地域の行事・イベントとあわせて実施すると参加者が集まりやすい。</li> </ul>

### 【概要・実施例】

- 年代問わず、誰もが自由に参加可能な防災イベント。
- 複数の体験ブースや啓発ブースを設置。
- 開催時間中は自由に来場可能。自分の興味のあるブースを自由に体験。
- 子供向けに、防災クイズやスタンプラリーを実施するなど楽しめる工夫も。

**防災クイズ**  
ちがさきこどもタウンニュースより  
(2020年9月タウンニュース発行)

自治会・自主防災会主催の防災フェア事例  
ヨコハマの「減災」アイデア集より  
(横浜市)

毎年開催している夏祭りを防災夏祭りとして開催した事例  
自主防災組織活動事例集より  
(熊本県)



### ② 個別訓練

訓練の目的
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害時に必要な知識や技術等を習得してもらう。</li> <li>● 訓練の参加を通じて、災害への備えについて認識を深めてもらう。</li> <li>● 地域の防災活動の必要性について認識を深めてもらう。</li> <li>● 「自助」の意識の向上と「共助」の力を高めてもらう。</li> </ul>

企画のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 地域の災害リスク等を踏まえ訓練メニューを選択。</li> <li>☑ 訓練の参加を通じ、災害への備えの必要性が伝わるような工夫。</li> <li>☑ 多くの住民に参加していただけるような工夫。</li> <li>☑ 自主防災組織や防災リーダー等の活躍の場として(活動紹介含む)。</li> </ul>

### 【概要・実施例】

- 学校等を会場に、主に地域住民を対象として災害時に必要な活動を個々に体験。  
※会場は学校のほか、公園など地区内の広い場所でも可。
- 訓練時間を設定し、個々の訓練を体験。  
※ローテーションもしくは参加者が自由に訓練ブースを回り、希望の訓練を体験するような方法で実施。



## B 防災関係者を対象とした訓練（例）



### ③ 活動型訓練

#### 訓練の目的

- 災害状況をイメージした訓練を行うことで、災害時の活動と一連の流れや必要な備え、その時々におけるべき行動を理解する。
- 「共助」の力を高める。
- 防災資機材等の使用目的や取扱方法の習熟度を向上させる。

#### 企画のポイント

- ☑ 地域の災害リスクを踏まえる。
- ☑ 災害時の状況をイメージできるような工夫を。
- ☑ 災害時の状況を設定し共有する。  
※災害時の「こういった状況下での活動」なのかといった設定をイメージしながら訓練を行うとより効果的。

#### 【概要】

- 地域の防災関係者（自主防災組織役員や防災リーダー等）を主な対象として、災害時の状況をイメージしながら行う実技型訓練。

#### 【実施例】

##### 【例① 個別訓練組み合わせ】

災害時の活動場面を想定し、個別訓練を組み合わせで一連の活動手順を訓練する。

##### 【例② 安否・被害状況等確認訓練、情報収集受伝達訓練（公助連携）】

地域内の被害状況、住民の安否確認等を集計し、地区で集約。あわせて災害対策地区防災拠点を通じた市への支援要請等、一連の活動手順や連携方法を確認。

##### 【例③ 避難所開設～運営訓練】

地震災害発生後、配備職員と地域関係者が避難所に参集。施設の安全確認から受け入れ場所の決定、資機材の準備や避難者の受け入れといった一連の活動手順を確認。



### ④ 図上訓練

#### 訓練の目的

- 組織内の役割や個別活動の目的・手順等についての理解度の向上、マニュアル整備・更新につなげる。
- 現有する防災資機材等の目的や種類・数量、取扱者等をあらためて確認し、整備強化につなげる。
- 地区内の自主防災組織間の連携・協力体制を構築する。

#### 企画のポイント

- ☑ 災害の想定や災害発生経過時間等を具体的に設定し参加者で共有する。  
※訓練参加者が「発生した災害」や「その時の状況」等、訓練上の設定事項を共有することが大切。
- ☑ 訓練によっては、災害発生日時や天候、自主防災組織・関係機関、避難所等の状況も必要に応じ考慮する。

#### 【概要】

- 災害時の具体的な地域の活動を確認・検証するための机上検討訓練。
- 各種防災教材を用いた防災訓練（研修型訓練含む）

#### 【防災教材「イメージTEN」（静岡県）を用いた図上訓練（例）】

対象者：自主防災組織役員、防災リーダー、関係者

準備：該当地域の地図、状況付与カード、自主防災組織保有物品一覧等

内容：地震発生後に自主防災組織関係者が活動拠点に参集。本部を設置。適宜課題を付与し地域で生じる様々な事象への対応を検証する

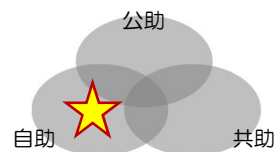


具体的な内容は次ページ以降の訓練メニューを参考に！

# Menu 1 防災意識の啓発

住民向け	防災関係者向け				
No.1-1	防災講座				
ポイント	災害リスクや備え、災害時に取るべき行動など、防災知識の習得と意識の向上を目指します。				
所要時間	20分 ～60分	開催場所	屋内会場	人数目安	10人～

- ① イベント型訓練
- ② 個別訓練
- ③ 活動型訓練
- ④ 図上訓練



## 概要・実施方法・イメージ等

(事前)

- テーマを決める  講師を決める (防災リーダー・市職員・外部講師等)
- 会場確保  時間設定
- 準備資機材、資料配布等の確認

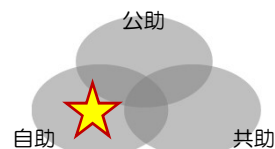
(当日)

- 会場設営  講師との調整  受付  進行



住民向け	防災関係者向け				
No.1-2	防災資機材・防災用品等の展示・紹介				
ポイント	防災資機材の使用目的・使用方法等を学ぶことで防災意識の醸成が期待できます。また、自宅で備えるべき防災用品の展示紹介を実際に目で見て手に取ることで、家庭での備えの促進を目指します。				
所要時間	30分～	開催場所	防災資機材・防災用品による	人数目安	—

- ① イベント型訓練
- ② 個別訓練
- ③ 活動型訓練
- ④ 図上訓練


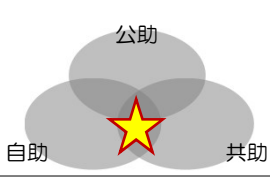


## 概要・実施方法・イメージ等

- 各家庭で備えるべき防災資機材・用品等を展示
- 防災資機材・用品毎に解説を表示
- 災害リスクをあわせて伝えることで必要性の理解につながる
- ポスター等の掲示、持ち帰り可能なチラシ等の配架
- 防災用品取扱業者等の展示・販売等





住民向け	防災関係者向け				
No.1-3	防災マップ・啓発紙等の作成		 <ul style="list-style-type: none"> <li>①イベント型訓練</li> <li>②個別訓練</li> <li>③活動型訓練</li> <li>④図上訓練</li> </ul>		
ポイント	自主防災組織活動の促進や地域住民の備え、防災意識の向上を図ることを目指します。				
所要時間	—	開催場所	—	人数目安	—

概要・実施方法・イメージ等

(自助の推進)


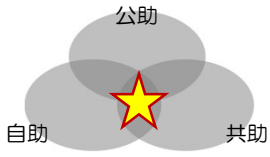
□防災情報等をまとめた防災地図や啓発紙等を作成し、地区内各戸への配布や掲示等により住民の備えや意識向上を推進する。

(共助の推進)

□地域の防災活動に関係する様々な防災情報をあらためて作成・整理するなど、組織活動の促進や防災体制の向上を図る。

□地域の災害リスクや危険個所、避難・集合場所等の地図作成

□隣近所の声かけ、助け合い活動の向上を目指した資料の作成及び配布、掲示

住民向け	防災関係者向け				
No.1-4	クロスロード（防災教材研修）		 <ul style="list-style-type: none"> <li>①イベント型訓練</li> <li>②個別訓練</li> <li>③活動型訓練</li> <li>④図上訓練</li> </ul>		
ポイント	災害時に直面する想定外の問題を通じ、災害を自分事として捉え、様々な意見や価値観を参加者同士で共有するとともに、いろいろな立場に立って考えることで、他者の理解を深めることが期待できます。				
所要時間	60分 ～120分	開催場所	屋内会場	人数目安	10～30人

概要・実施方法・イメージ等

□市へ教材借用依頼

災害対応には正解がなく、その時の状況によって判断が異なることを体験できるカードゲーム形式の防災教材。グループに分かれて設問に対する答えを「YES」か「NO」で選択し、その理由を発表、話し合う。

□参加者はグループ分け（1グループ5人程度）

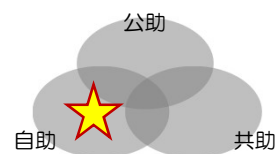
□グループ内で、それぞれが選択した理由を発表。

□グループごとに交わされた意見内容を発表、全体で共有。



## Menu2 自分の身を守る方法を知る

住民向け		防災関係者向け	
No.2-1	地震体験	①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練	
ポイント	地震の揺れを体験することで、地震発生時に慌てず落ち着いて身を守る行動をとることができるようになることを目指します。		
所要時間	30分 ～120分	開催場所	屋外 ※稼働可能な場所
人数目安	30人～		
概要・実施方法・イメージ等			
<input type="checkbox"/> 市へ起震車派遣申請手続き（連絡） <input type="checkbox"/> 1回最大4人まで乗車可能 <input type="checkbox"/> 1回の体験時間の目安は30秒～1分程度 （別途乗り換え時間等が必要）			



住民向け		防災関係者向け	
No.2-2	濃煙避難体験	①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練	
ポイント	火災時の避難行動を疑似体験することで、火災が発生した時に落ち着いて避難行動をとることができるようになることを目指します。		
所要時間	30分 ～120分	開催場所	屋外 ※稼働可能な場所
人数目安	30人～		
概要・実施方法・イメージ等			
<input type="checkbox"/> 市へ濃煙避難体験訓練実施と資機材借用申請手続き（連絡） <input type="checkbox"/> 専用のテントを設営し、煙発生装置によりテント内に煙を充満させる。 <input type="checkbox"/> 入口・出口に安全管理員を配置し、一人ずつ体験。 <input type="checkbox"/> 参加者は口にタオル等を当て、姿勢を低くしながら、壁を伝い進む。 ※煙やにおいが発生するため、実施場所の近隣へ配慮が必要。			





住民向け	防災関係者向け				
No.2-3	マイ・タイムライン作成訓練			①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練	
ポイント	マイ・タイムラインの作成を通じ、風水害時における避難行動や日頃の備えについて理解を深めることが期待できます。				
所要時間	60分 ～120分	開催場所	屋内会場	人数目安	10～30人

概要・実施方法・イメージ等

□教材

- 「マイ・タイムラインシート」、洪水ハザードマップ別冊「ガイドブック」
- 洪水ハザードマップをもとに、地域に想定される浸水リスクや避難所・避難場所を踏まえ、個々の事情を考慮しながらマイ・タイムラインシート等の作成を行う。
- シートの作成ができる環境（机、椅子等）



住民向け	防災関係者向け				
No.2-4	E V A G（風水害避難行動検討訓練）			①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練	
ポイント	災害時の避難行動を考えることに特化した教材で、「情報を受けた住民が災害時にどのような行動をとるか」を考えることで、災害時に自分で考えて行動できる人を育てることを目指します。				
所要時間	60分 ～120分	開催場所	屋内会場	人数目安	12～24人

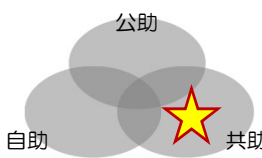
概要・実施方法・イメージ等

- ロールプレイにより避難行動のシミュレーションを体験する、カードゲームタイプの防災教材。様々な事情を抱えた住民の立場になるロールプレイと、災害を疑似体験するシミュレーションを組み合わせ、災害時の避難行動の難しさを実感することができます。
- グループ分け（1グループ6人程度×4グループ）
- ロールプレイ：属性カードの人になりきって考える。
- 地域に住む多様な人の体験を共有し避難行動の課題を話し合う。

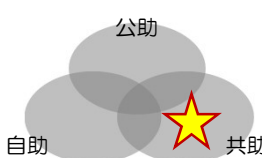


## Menu3 助ける方法を知る

住民向け		防災関係者向け	
No.3-1	救助・救出訓練	①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練	
ポイント	地震により倒壊した家屋や家具・ブロック塀等の下敷きになった要救助者を救出するための方法を習得します。		
所要時間	20分～	開催場所	屋外 ※広い場所
人数目安	10人～		
概要・実施方法・イメージ等			
<input type="checkbox"/> 人形を下敷きに、木材や廃材等を重ねる。 <input type="checkbox"/> 挟まれている人形へ声を掛け、安心感を与える。 <input type="checkbox"/> バールや木材等をテコにして人形の上に隙間を作る。 <input type="checkbox"/> ジャッキを用いて持ち上げる。 ※チェーンソーの取り扱い訓練も可能。 ※参加者の安全管理徹底（ヘルメット、軍手等は必須）			



住民向け		防災関係者向け	
No.3-2	搬送訓練	①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練	
ポイント	担架や車いすのほか、毛布や上着等の身近なもの、または人力等により、自力歩行が困難な負傷者等を搬送する方法を習得します。		
所要時間	20分～	開催場所	屋外 ※広い場所
人数目安	10人～		
概要・実施方法・イメージ等			
<input type="checkbox"/> 担架に人形（または負傷者役の方）を乗せ立ち上がり、進む。 基本的な担架搬送方法を学ぶ。 <input type="checkbox"/> 担架搬送法 担架による基本的な搬送手順を確認する。 毛布や上着等、身近な物を用いて応急的な担架を作成し搬送する。 <input type="checkbox"/> 徒手搬送法 担架等を用いず、2名以上で搬送を行う方法。			



住民向け	防災関係者向け				
No.3-3	応急手当訓練① (心肺蘇生法やAEDの取扱方法)	①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練			
ポイント	心肺蘇生法やAEDによる救命措置方法を習得します。				
所要時間	20分～	開催場所	屋外・屋内	人数目安	10人～

概要・実施方法・イメージ等

- 傷病者の確認、119番通報
- 心肺蘇生
- AEDの使用
- ※訓練指導者の派遣必要





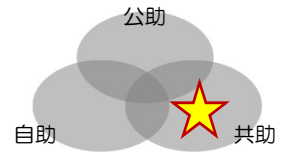
住民向け	防災関係者向け				
No.3-4	応急手当訓練② (外傷等の応急手当方法)	①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練			
ポイント	出血や骨折した方に対する応急手当の方法を習得します。				
所要時間	20分～	開催場所	屋外・屋内	人数目安	10人～


概要・実施方法・イメージ等

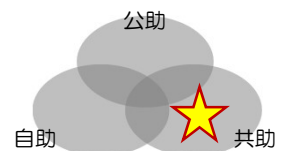
- 三角巾を使用した止血方法  
頭・額の止血、肘・膝の止血
- 外傷等に対する応急手当法  
直接圧迫止血法  
ビニール袋、タオル等を使用した止血法  
ストッキングを用いた止血法
- 骨折等に対する応急手当方法  
添木になる物を用意し固定  
※新聞紙や雑誌、段ボール、傘なども代用可能



住民向け	防災関係者向け				
No.3-5	消火訓練① (移動式ホース格納箱の取扱方法)	①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練			
ポイント	震災時の火災リスクを理解するとともに市内約500か所に整備されている移動式ホース格納箱の取り扱い方法を知り、地域内の初期消火活動力の向上を目指します。				
所要時間	20分～	開催場所	屋外	人数目安	10人～
概要・実施方法・イメージ等					
<input type="checkbox"/> 移動式ホース格納箱を用いた初期消火訓練 <input type="checkbox"/> 資機材 移動式ホース格納箱・模擬消火栓 <input type="checkbox"/> 実施方法 ①市の火災リスクと ②移動式ホース格納箱の説明 ※消防団・防災リーダー等が指導					
					



住民向け	防災関係者向け				
No.3-6	消火訓練② (消火器の取扱方法)	①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練			
ポイント	火災を発見した際の基本行動と消火活動を理解します。あわせて市内に配備されている街頭消火器の周知と家庭への消火器の設置を促進し、震災時の初期消火対応力の向上を目指します。				
所要時間	20分～	開催場所	屋外	人数目安	10人～
概要・実施方法・イメージ等					
<input type="checkbox"/> 水消火器を用いた初期消火訓練 <input type="checkbox"/> 資機材：水消火器・的 <input type="checkbox"/> 実施方法 ①火事の発生を周囲に知らせる「火事だあ！」 ②近くの人へ119番へ通報を依頼 ③火元を見極め消火！ ※消防団・防災リーダー等が指導 ※水消火器への充填のため、水道設備の近くで実施する					
					



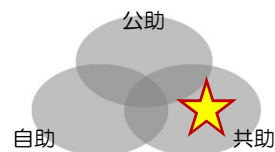


## Menu 4 組織活動を高める



住民向け	防災関係者向け				
No.4-1	イメージTEN 自主防災組織災害対応訓練（図上訓練）				
ポイント	自主防災組織役員となった場合の体験を疑似的に経験することで、地域における災害対応を俯瞰的に理解することで、地域の防災活動体制の更なる向上を図ることが期待できます。				
所要時間	90分 ～150分	開催場所	屋内会場	人数目安	10～30人 ※1グループ5～10人

- ① イベント型訓練
- ② 個別訓練
- ③ 活動型訓練
- ④ 図上訓練



### 概要・実施方法・イメージ等

（準備）

該当地域の地図  様式  状況付与カード  自主防災組織保有物品一覧 等

（内容）

進行・進行補助：数名  1グループ5～10人

訓練開始前：概要説明、訓練上の役員、

防災資機材の確認、本部開設

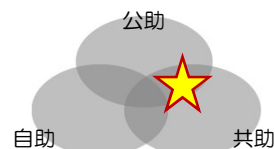
訓練開始：課題・情報付与、振り返り



図上訓練教材  
自主防災組織活動  
対応訓練  
イメージTEN  
（静岡県）

住民向け	防災関係者向け				
No.4-2	情報収集・受伝達訓練				
ポイント	災害時の被害状況等の収集・伝達方法を確認します。 災害時に用いる情報受伝達機器を使用することで、機器の取り扱い方法の習熟度の向上、情報の流れを確認します。				
所要時間	30分 ～60分	開催場所	本部・地域内活動場所・学校	人数目安	10～30人

- ① イベント型訓練
- ② 個別訓練
- ③ 活動型訓練
- ④ 図上訓練



### 概要・実施方法・イメージ等

情報収集計画：いつ、誰が、どこで、何を、どのように）情報を収集し伝達するかを活動マニュアル等で整理しておくことが望ましい。

地域が保有する無線機等を用いて情報の伝達を行う。

（無線機等での伝達が難しい場合の他の手段の確保）

あらかじめ収集情報を用意し、担当者が無線等により本部へ伝える。

【追加要素】

本部では、収集した情報を整理集約し、問題点・課題等を抽出、対策の検討及び実行につなげるなど、収集した情報をもとに活動検討を行うのも効果的。

住民向け		防災関係者向け			
No.4-3	安否確認訓練	①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練			
ポイント	災害時に地域住民の安否を速やかに確認する体制を整えることができます。また、住民へは、隣近所や地域内の助け合いの重要性の理解へつなげ、共助の向上を目指します。				
所要時間	30分 ～60分	開催場所	地域内 ～地域活動拠点	人数目安	—
概要・実施方法・イメージ等					
<p>(準備)</p> <p><input type="checkbox"/> あらかじめ地域住民に対し安否確認訓練の実施について周知する。</p> <p><input type="checkbox"/> 無事を知らせる方法を周知する。</p> <p>(内容)</p> <p><input type="checkbox"/> 安否状況を確認し本部等で集約する。</p>					
住民向け		防災関係者向け			
No.4-4	安否・被害状況等確認訓練 (情報収集・受伝達訓練をあわせて実施)	①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練			
ポイント	地域住民の安否確認や地域内の被害状況等の収集を通じ、被災者の早期発見及び市への救援につなげるための体制を整え、市（公助）との関りを確認します。				
所要時間	60分 ～120分	開催場所	地域～地域活動拠点 ～災害対策地区防災拠点	人数目安	—
概要・実施方法・イメージ等					
<p><input type="checkbox"/> 地域であらかじめ検討している活動手順に照らし、地域住民の安否や被害状況、救援ニーズ等を確認し、本部等で集約、必要に応じ市へ支援要請を行う。</p> <p><input type="checkbox"/> 状況等確認手段の検証、地域内での情報の整理、支援の実施、市への救援要請等、関連する一連の活動を確認する。</p> <p>【実施方法例】</p> <p>① 安否確認・集約</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あらかじめ定めている方法により地域住民の安否確認を行い、本部で集約する。</li> </ul> <p>② 被災者等の状況把握・支援策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家屋内の閉じ込め等により救助を要する被災者がいないか確認し、救助・救援を要する被災者がいる場合は、対応方法を検討する。</li> </ul> <p>③ 被害状況等の把握・対応策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安否確認活動中に地域内の被害状況等、知り得た災害情報を本部へ報告し、本部では対応方法を検討する。</li> </ul> <p>④ 対応検討については、あらかじめ課題を作成し、状況付与型の訓練を行う。</p>					

## Menu5 地域で助け合う仕組みづくり

住民向け		防災関係者向け			
No.5-1	避難行動要支援者避難支援訓練 (避難誘導支援)		①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練		
ポイント	地域内の避難行動要支援者等の実効性の高い避難支援体制の構築につなげることが期待できます。				
所要時間	60分 ～120分	開催場所	地域内 ～避難所	人数目安	—
概要・実施方法・イメージ等					
<input type="checkbox"/> 避難行動要支援者個々の事情を踏まえ、災害リスクに応じた避難先までの避難訓練を行う。 <input type="checkbox"/> 担架や車いす等の取り扱い方法を確認する。					

住民向け		防災関係者向け			
No.5-2	避難行動要支援者避難支援訓練 (避難生活支援)		①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練		
ポイント	避難所での配慮や支援等の具体的な方法を確認し、課題の抽出及び具体的な取り組みにつなげることが期待できます。				
所要時間	60分 ～120分	開催場所	避難所	人数目安	30人～
概要・実施方法・イメージ等					
<input type="checkbox"/> 「地震」「風水害」など、訓練想定災害を設定する。 <input type="checkbox"/> 避難所マニュアル等を参考に避難スペースへ受け入れるにあたり、 <ol style="list-style-type: none"> <li>①受け入れ場所の選定</li> <li>②避難スペースまでの誘導・移動支援</li> <li>③受け入れ後の支援体制・設備環境 等を確認する。</li> </ol>					

## Menu6 避難所での防災活動



- ① イベント型訓練
- ② 個別訓練
- ③ 活動型訓練
- ④ 図上訓練



住民向け	防災関係者向け				
No.6-1	避難所開設・運営訓練				
ポイント	避難所開設の流れを疑似体験し、災害発生から避難所の開設、受け入れまでの一連の流れを確認します。				
所要時間	60分 ～120分	開催場所	小中学校校庭 体育館、校舎等	人数目安	20人～

### 概要・実施方法・イメージ等

#### □訓練のながれ【地震編】

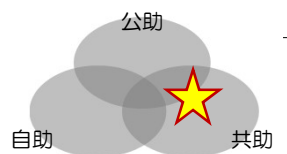
- ・ 配備職員、地域の防災関係者が学校へ参集する。
  - ・ 避難所運営マニュアルに基づき発災直後の避難所開設手順を確認する。
- (受け入れ準備)
- ・ 簡易応急危険度判定を実施、施設の安全を確認し受け入れ準備を進める。
  - ・ 配備職員の指示により、①受付②受け入れ場所③資機材等の準備を行う。
  - ・ 市災害対策本部へ状況を報告する。(情報受伝達)

#### (避難者対応)

- ・ 開設準備中に訪れる避難者へ一時待機を説明。
- ・ 開設準備の状況を見て、避難者を受付に誘導し、受け入れを行う。

住民向け	防災関係者向け				
No.6-2	避難所運営ゲーム (HUG)				
ポイント	避難所に押し寄せる避難者の対応を通じ、避難所の受け入れについて認識を深めます。				
所要時間	120分 ～150分	開催場所	屋内会場	人数目安	30～50名

- ① イベント型訓練
- ② 個別訓練
- ③ 活動型訓練
- ④ 図上訓練



### 概要・実施方法・イメージ等

#### □教材の借用依頼

□各種図面等の用意 (データを提供するので印刷してください)

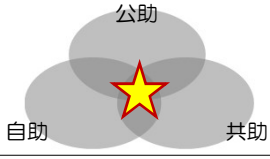
□全体進行役、カード配布役、プレイヤー

プレイヤーはグループに分かれる (1グループ5～6人程度)

□避難者の情報が書かれたカードを、避難所となる体育館や教室に見立てた紙の上に配置したり、避難所で起こる様々な出来事への対応を通じ、思いのままに意見を出しあったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所の運営を学ぶ。



住民向け	防災関係者向け
------	---------

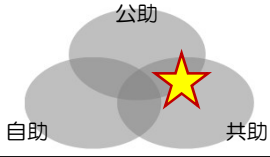
No.6-3	避難所生活体験訓練	①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練			
ポイント	避難所開設時の体育館を再現し、実際に受付から生活場所までの誘導、滞在を通じ、体育館での避難時生活を疑似体験することで、避難時の携行品や避難所運営への協力に係る意識の向上を目指します。				
所要時間	30分 ～60分	開催場所	体育館	人数目安	30人～

概要・実施方法・イメージ等

- 体育館を避難所として設営。
- 参加住民は、避難者役を演じる。受付を行い体育館へ誘導される。
- 居住スペースへ滞在し、災害時の避難所のイメージをもち、避難時の携行品等の必要用品を認識する。
- 配備職員や地域防災関係者は、実際の避難者の受け入れ方法を確認する。




住民向け	防災関係者向け
------	---------

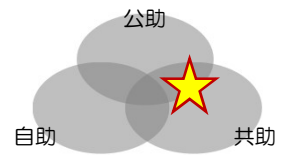
No.6-4	避難所資機材取り扱い訓練	①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練			
ポイント	避難所に備蓄している資機材の使用目的や取り扱い方法を確認し、災害時に速やかに必要資機材を活用できる体制の構築を目指します。				
所要時間	30分 ～60分	開催場所	小中学校校庭	人数目安	10人～


概要・実施方法・イメージ等

- 資機材取り扱い方法の確認  
(主な対象資機材)  
・仮設トイレ ・簡易トイレ ・発電機・投光器 ・パーテーション  
・簡易ベッド ・組み立て式水槽 ・ろ水機 ・炊き出し用釜セット など
- 訓練の発展型：使用場所の検討（活動型訓練）  
資器材の取り扱い方法の確認と加え、災害時の避難所開設時の状況を踏まえ使用場所等、災害時の活動視点を加える。  
避難所運営マニュアルを参考に、各資機材の使用場所等を確認する。



住民向け		防災関係者向け			
No.6-5	避難所での応急トイレ対策訓練		①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練		
ポイント	避難所でのトイレ対策（簡易トイレ、仮設トイレ）について手順を確認します。				
所要時間	30分	開催場所	小中学校校庭 体育館、校舎等	人数目安	—
概要・実施方法・イメージ等					
<input type="checkbox"/> 災害時の停電・断水の状況を想定し、早期時点におけるトイレ対策の実施の必要性について認識する。 <input type="checkbox"/> 既設トイレを使用した応急トイレ対策を確認する。 <input type="checkbox"/> 簡易トイレ、仮設トイレの取り扱い方法を確認する。 <input type="checkbox"/> 避難所運営マニュアルに基づき、仮設トイレ設置場所を確認する。					
					



住民向け		防災関係者向け			
No.6-6	避難所での応急給水訓練		①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練		
ポイント	避難所での応急給水手順を確認します。				
所要時間	30分	開催場所	小中学校校庭	人数目安	—
概要・実施方法・イメージ等					
<input type="checkbox"/> 防災コンテナ倉庫に備蓄してある、応急給水用防災コンテナ（250ℓ、組み立て式水槽）の取り扱い方法を習得する。 <input type="checkbox"/> ろ水機の取り扱い方法を習得する。 <input type="checkbox"/> 応急給水実施手順等を確認する。 <input type="checkbox"/> 避難所運営マニュアルに基づき、応急給水場所を確認する。 <input type="checkbox"/> 各学校の受水槽の場所や取水方法等を確認する。					
					



住民向け	防災関係者向け				
No.6-7	避難所炊き出し訓練			①イベント型訓練 ②個別訓練 ③活動型訓練 ④図上訓練	
ポイント	避難所での炊き出し実施手順等を確認します。				
所要時間	60分～	開催場所	小中学校校庭	人数目安	—

概要・実施方法・イメージ等

- 防災コンテナ倉庫に備蓄してある、応急給食用炊き出しセット等の取り扱い方法を習得する。
- 調理した炊き出しの分配方法等を確認する。
- 避難所運営マニュアルに基づき、炊き出し実施場所を確認する。

※新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえ、当面の間は実施不可としています。



**※記載している訓練は一例です。ここで紹介していない訓練メニューについても、実施可能なものもありますので、希望する訓練などがあれば、適宜ご相談ください。**

(各種訓練のイメージ)





## 4 地区防災訓練への支援

### (1) 地区防災訓練補助金

#### ① 補助金の概要

市では、各認定コミュニティ（または地区自治会連合会）が主催して防災訓練を実施する場合に、防災訓練に要した経費に対して補助をしています。

補助金額は、事業に要した経費の4分の3以内とし、毎年4月1日現在の自治会連合会に加入している世帯数に応じ、限度額を定めています。

#### ② 主な手続き

##### ● 交付申請書の提出

市よりまちぢから協議会会長または自治会連合会会長へ関係書類を送付します。

市が指定する期日までに、事業計画書など関係書類を添えて交付申請書を提出します。

##### ● 交付決定・支給

交付額を決定し通知します。併せてまちぢから協議会会長（または自治会連合会会長）が指定する口座へ補助金を支給します。

##### ● 実績報告書の提出

事業実施報告書や訓練の実施に要した経費の領収書等関係書類を添え、実績報告書を提出し、補助金の清算を行います。

### (2) 訓練実施に向けて

#### ① 訓練用資機材の貸し出し

防災訓練に必要な資機材はできる限り地域で保有する資機材または避難所等に保管している資機材を活用してください。

それ以外で、訓練に必要な資機材等は、訓練内容の協議と合わせ、防災対策課職員へご相談ください。

※地震体験や濃煙避難体験を実施する際は、訓練を同日時程で実施する地域がある場合は、調整が必要です。場合によっては、当該訓練を実施できない場合もございます。

#### ② 消費期限を迎える備蓄食料の有効活用

年度内に消費期限を迎える備蓄食料を有効活用するため、訓練において必要な場合は、訓練参加見込み者数等に応じた数量を可能な範囲で提供します。

※廃棄予定時期・数量等により提供できない場合もあります。

#### ③ 打合せ等への参加

防災訓練の概要等の大枠が決まりましたら、詳細の調整に向け防災対策課へご相談ください。訓練実施に向けた助言や訓練当日の関り方など、地域での企画・検討を優先しながら必要な協力をさせていただきます。

訓練実施後の振り返りの際もご相談ください。

#### ④ 当日の訓練補助

基本的な進行等は地区の方で担います。特殊な訓練種目での指導、会場設営等について協力させていただきます。

できる限り防災リーダー等が指導役を担うようお願いします。

## 5 自主防災組織が実施する防災訓練等への支援

### (1) 講師の派遣等

#### ① 防災訓練

単位自治会（自主防災組織）が実施する訓練の指導は、防災リーダー等が担うことを基本とし、原則として防災対策課職員の派遣は行わないこととしています。

訓練指導は、できる限り防災リーダー等が担っていただくようお願いいたします。

※訓練の相談等は、随時受け付けています。

※訓練指導に向けた防災リーダーへの事前指導等もご相談ください。

#### ② 防災研修・講座

研修講座等を御希望の場合は、防災対策課へご相談ください。

「市民まなび講座」をご用意しています。

市ホームページ（検索）「市民まなび講座」

[https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/bunka\\_shogai/1005568.html](https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/bunka_shogai/1005568.html)

また、市では「防災動画（防災講座編・防災資機材編）」を作成し、市ホームページでの公表・DVDの貸し出し等をしているので、できるかぎり活用してください。

#### ③ 地震体験・濃煙避難体験

基本的な操作は防災対策課職員が担いますが、安全管理や訓練補助等の協力をお願いします。また、実施場所の適否の判断が必要です。

訓練企画段階で防災対策課へご相談ください。（最低遂行人員：約30人）

### (2) 資機材の貸し出し等

#### ① 資機材等の貸し出し

	名称（保有数量）
1	水消火器（44本）・的（5個）
2	担架棒（18本）・簡易担架（7個）・ダミー人形（4体）
3	茅ヶ崎市作成防災動画（DVD）
4	啓発ビデオ（DVD）※内容は、窓口でご相談ください。

※その他の資機材等は、別途ご相談ください。

#### ② 貸し出し手続き

市役所防災対策課へ事前に連絡の上、借用可否について確認の上、窓口にお越しく下さい。窓口にて「防災資機材等借用書」を提出していただきます。

#### ③ 防災動画

茅ヶ崎市に想定される災害リスクや平常時からの備えを正しく知っていただくため、また防災資機材の取り扱い技術を習得していただくための動画を制作し、YouTubeで公開しています。また、DVDの貸し出しも行っています。

## 防災動画

(防災講座編)



### 【防災講座編】

- 地震への備え (約12分)
- 火災への備え (約14分)
- 津波への備え (約12分)
- 風水害への備え (約14分)
- 要配慮者対策 (約9分)
- 避難所・避難場所 (約15分)
- 在宅避難のすすめ (約7分)
- 自主防災組織 (約8分)

(防災資機材編)



防災動画は、市ホームページでの公開しています。  
また、DVDの貸し出し等も行っています。

### (3) 神奈川県総合防災センター研修

神奈川県防災センター（神奈川県厚木市）では、自主防災組織を対象とした研修会等を開催しています。

県より研修の受講に係る照会がありましたら、市より各自主防災組織へご案内することを予定しています。

※募集企画により内容等が変更となる場合もあります。

※詳細は、当該年度の募集要項等によります。

### (4) 防災リーダーへの支援

#### ① 防災リーダーの育成

市では、令和3年度より、すでに防災リーダーとして登録されている方を対象とした「フォローアップ研修」を開催しています。

開催日は、7月頃を予定しています。

#### ② 新たな防災リーダーの養成

市では、新たに防災リーダーとして活動していただく方を対象とした「養成研修」を開催しています。

令和元年度までは、年に2回（7月頃、1月末頃）実施していましたが、令和3年度より、年に1回の開催とし、開催日は、1月下旬から2月上旬を予定しています。

### (5) 自主防災組織育成補助金

#### ① 補助金の概要

市では、各自主防災組織がその活動を行うために必要な資材又は機材や、自主防災組織活動マニュアルを整備すること、自主防災組織内における防災知識の普及・啓発を行うこと等に係る事業に補助をしています。

#### ② 主な手続き

##### ▶ 整備計画申請書の提出

年度当初に市より自主防災組織会長へ関係書類を送付します。

指定された期日までに、整備計画申請書を提出してください。

##### ▶ 内定額の決定通知

各自主防災組織から提出された整備計画に基づき、市の予算を踏まえ、内定額を決定し通知します。

##### ▶ 購入・整備等

整備計画に基づき、資機材の購入・整備等をしてください。

##### ▶ 交付申請書の提出

購入した資機材の領収書等関係書類を添え、期日までに交付申請書を提出してください。

##### ▶ 交付決定通知・支給

交付額を決定し通知します。併せて自主防災組織が指定する口座へ補助金を支給します。

## ● コロナ禍の訓練中止を踏まえて

○令和2年度、3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、地区防災訓練を中止することとなりました。

しかしながら、地区が実施する防災訓練の意義は大変大きなもので、

住民一人ひとりが防災に関する正しい知識を身に付け、日頃から具体的な「備え」を実践することや、災害時の「的確な行動」を促し、自ら「日常においていかに備え、災害時に何をすべきか」考える

重要な機会となっています。

○一方で、防災訓練やイベントを企画する上で、主催者は参加者の安全を最優先に考える必要があります。

感染拡大が懸念されている際には、多くの人が集まる機会（訓練当日・事前打合せを含む）を避けることなど、リスクを考慮し訓練を中止すべき事情も生じ得ます。

○こうした経験を踏まえ、今後のコロナ禍の防災訓練の実施に際しては、

① 市は、感染状況悪化するなど、相対的に見て感染が拡大傾向にあるときなどは、主催者へ、訓練の中止や延期、再検討などを促します。

② 市は、主催者からの日程変更や内容変更などができる限り柔軟に対応します。

③ 主催者は、参加者の安全を最優先に訓練を計画・変更してください。

④ 主催者は、感染防止対策を十分に踏まえ、訓練当日のみならず事前打ち合わせ等においても十分な配慮を行ってください。

①～④を踏まえた上で、実施可能な訓練方法を検討することとします。

## ● 感染拡大状況下の防災訓練の取り組み

○感染拡大等により、やむを得ず防災訓練を中止とした際は、対象経費のうちすでに準備に要した経費も補助対象とします。

○感染が拡大傾向にあり、集合型の訓練等が実施できないときにおいても、防災訓練で当初設定した目的を達成するために手法を変更し実施する取り組みについては、防災訓練の実施方法の変更とみなし補助事業の対象とします。（下の例）

### 住民の防災意識の向上

例

- ▶ 防災意識の向上に資する啓発紙等の作成・配布
- ▶ 各家庭の備えや取り組みを把握するためのアンケートの実施

### 組織活動の促進

例

- ▶ 地区の活動マニュアル等の作成（地区と各自主防災組織の関係）
- ▶ 地区の防災活動に関する資料作成

○感染が拡大傾向とまではいかなくとも、相対的に見て、多くの人が集まるような機会を避ける必要がある場合は、住民を対象とした啓発型訓練は避けてください。

○防災関係者を対象とした訓練においても、人数や時間は最小限とし、打合せ等も同様に人が集まる機会の軽減や手法の変更等により、感染症に十分に配慮してください。

また、訓練を実施する際も、各地域の拠点に最小人数が参集し、地区全体で情報受伝達訓練を行う等、分散型の訓練を計画し、関係者が一堂に会することなく実施できる方法を検討してください。



# 令和4年度 地区防災訓練事例集

- 1 茅ヶ崎地区防災訓練
- 2 茅ヶ崎南地区防災訓練
- 3 海岸地区防災訓練
- 4 南湖地区防災訓練
- 5 湘南地区防災訓練
- 6 鶴嶺東地区防災訓練
- 7 鶴嶺西地区防災訓練
- 8 松林地区防災訓練
- 9 小和田地区防災訓練
- 10 松浪地区防災訓練
- 11 浜須賀地区防災訓練
- 12 湘北地区防災訓練
- 13 小出地区防災訓練

# 1 茅ヶ崎地区防災訓練

## 防災クロスロード

地区名：茅ヶ崎地区

日付：令和4年10月15日（土）

会場：梅田小学校体育館

参加人数：91人

自主防災組織	教職員	防災対策課員
86人	1人	4人

### 防災訓練の内容とポイント

コロナ禍を考慮し、炊き出し等の実技訓練ではなく、図上訓練を実施しました。

#### ① 防災講話（30分）

市防災対策課が、災害リスク（地震、風水害等）に応じた備えやとるべき行動についての講話を実施しました。必要な時に講話の要点を見返しやすく講話スライドの概要版（A3／1枚）を参加者に配布しました。

#### ② 防災クロスロード（1時間）

準備段階から災害状況をイメージしながら検討を進め、過去の研修で扱った問題だけでなく、今回の訓練用にアレンジした問題を全10問行いました。進行役は防災部会が担当し、自主防災組織及び配備職員のメンバーが10グループ（5～7名／グループ）に分かれて実施しました。グループ分けは、様々な自主防災組織のメンバーと交流できるよう工夫しました。また、基本はグループ内で話しましたが、少数意見等については、会場に向けて発表することで、全体で共有しました。



### 防災訓練の感想

従来型の実技訓練ではなく、図上訓練を多人数で実施することができ、ノウハウとして蓄積できました。様々な自主防災組織の参加者同士で意見交換し、異なる考え方を知ることができ、実際の避難所運営等で役立つと思います。今回はコロナ禍で参加者が限定されましたが、今後は防災にあまり興味のない人も参加できて、意識を変えるきっかけになるような訓練も必要だと考えます。

## 2 茅ヶ崎南地区防災訓練

### 防災クロスロード

地区名：茅ヶ崎南地区

日付：令和4年10月9日（日）

会場：高砂コミュニティセンター

参加人数：40人

自主防災組織	配備職員	防災対策課員
35人	3人	2人

#### 防災訓練の内容とポイント

今年度は、防災訓練ポイントブックをもとに訓練内容の検討を進め、コロナ禍の影響もあったため、防災関係者を対象に組織活動を推進するための防災訓練を実施することになりました。昨年度は避難所運営ゲーム「HUG」を実施。今年度はカードに書かれた事例を自らの問題として考え、さまざまな選択をイメージする防災クロスロードを実施することとなりました。準備をする際に地域の災害リスクをイメージして出題するお題を防災担当者間で検討しました。お題を検討する中、地域の災害リスクを再認識することができました。訓練当日は災害時によくあるジレンマをテーマにして、YESかNOか、どちらの道に行けばよいか判断することが難しかったです。訓練会場の雰囲気は良く、活発な意見交換ができたので、様々な意見や価値観を参加者同士で共有することができました。



#### 防災訓練の感想

準備段階から災害状況をイメージしながら防災訓練の準備を進め、防災クロスロードのお題を防災訓練の担当者間で検討しました。防災訓練の担当だからこそできる良い経験となり、災害状況をイメージすることの大切さを再認識しました。次年度は地域の災害リスクを踏まえた防災訓練に取り組んでいきたいと思っております。

## 3 海岸地区防災訓練

### 避難所開設と運営実地訓練

地区名：海岸地区

日付：令和4年10月15日（土）

会場：東海岸小学校

参加人数：100人

自主防災組織	教職員	配備職員	防災対策課員	民生児童委員
60人	2人	12人	6人	20人

#### 防災訓練の内容とポイント

新型コロナウイルス感染症の影響で参加者を防災関係者に規模を縮小して避難所の開設・運営までの手順の確認と検証を実施することになりました。事前に説明会を実施し、避難所開設の8つの主な業務を時系列にならべ、各担当の役割分担を確認しました。各担当ごとに発災時の役割を共有することができました。

訓練当日は、大規模な地震が発生したことを想定し、校門の開錠から施設外観の応急危険度判定、避難所を開設して避難者の受入までの手順や必要人員と資機材の確認を行い、パーティション28基とブルーシートを配置することで体育館のゾーニングを実施し、受入態勢を確認することができました。避難者の誘導の際は、屋外に設置した1次受付で発熱した人や体調不良者の感染症チェックを行い、体育館内の2次受付では避難者の居住地域や属性を考慮して滞在場所の割り振りを行いました。



#### 防災訓練の感想

パーティションやブルーシートを設置するには人員が必要です。発災時に集まってくる避難者に対応する受付にも人員が必要です。今回の訓練を通して、避難所開設時は配備職員や学校関係者だけでは人手が足りないので地域で避難所を支える必要があると感じました。



## 4 南湖地区防災訓練

### 防災資機材取り扱い訓練

地区名：南湖地区

日付：令和4年9月10日（土）

会場：西浜小学校

参加人数：100人

自主防災組織	教職員	配備職員	防災対策課員
100人	1人	7人	6人

#### 防災訓練の内容とポイント

南湖地区は新型コロナウイルス感染症の影響で参加者を制限して防災関係者を対象とした防災訓練を実施しました。4グループに分かれて順番に訓練ブースを回することで、感染症対策を十分に行いました。

午前中は、各自主防災組織が独自に安否確認訓練を行い、午後に各自主防災組織より供出された防災資機材の展示及び取り扱い訓練を行いました。訓練ブースは簡易トイレの組み立てや発電機の試運転、起震車、濃煙避難体験、車椅子の取り扱い訓練を行い、地区内の自主防災組織で扱っている資機材の違いや特徴などの情報を共有することができました。

車椅子の取り扱い訓練ではボランティア団体「ポテトの会」に御協力をいただき、2人1組で車椅子の乗車体験と運転の体験をすることができました。



#### 防災訓練の感想

今までの合同防災訓練では、防災組織の役員は、一般参加者への指導が主で自分達が直接他地区の資機材の取扱いや起震車、煙体験などやる機会は少なかったもので、良い体験になりました。



## 5 湘南地区防災訓練

日 付：令和4年9月24日（土）

会 場：湘南地区コミュニティーセンター

**訓練当日は、HUGを実施する予定でしたが、台風15号の接近により、地区防災訓練は中止となりました。**

# 防災拠点と災害本部を繋ぐ情報受伝達訓練

地区名：鶴嶺東地区

日付：令和4年11月13日（日）

会場：鶴嶺小中学校、鶴が台小中学校、円蔵中学校、浜之郷小学校

参加人数：307名（鶴嶺東9自治会訓練参加5,870世帯）

自主防災組織	教職員	配備職員	防災対策課員
260人	8人	32人	7人

## 防災訓練の内容とポイント＜訓練で顔が見えて繋がる鶴嶺東＞

- コロナ過のもと久しぶりの合同防災訓練で、地域の6小中学校拠点校へ行く。
    - ・拠点校の進行は拠点校責任自治会代表者と配備職員で協力して進める。
    - ・拠点校での受付は、各自治会員で実施する。この訓練に3項目の目的を決め、各自治会が準備をしました。
    - 1 情報伝達→トランシーバーの活用
    - 2 各校の配備職員との顔合わせをする。
    - 3 各拠点校の防災資機材の説明と確認をする。
  - 各自治会役員、組長（班長）、防災リーダーが協力して、会員の安否確認や要支援者への声掛け等をして、顔合わせをする。
  - 拠点校での訓練があるので、時間内におさめる。
  - 拠点校の協力が不可欠なので、各校の責任者を設け窓口となり交渉を依頼した。
- ※とにかくコロナ感染には十分な注意喚起をする。



## 防災訓練の感想

- 久しぶりの合同防災訓練でしたが、内容の検討が必要
  - 会員への防災に対する意識向上に努める
- 基本は隣近所のふれあいから顔見知りになる事が一番と感じました。

# 7 鶴嶺西地区防災訓練

## 防災クロスロード

地区名：鶴嶺西地区

日付：令和4年11月6日（日）

会場：鶴嶺西コミュニティセンター

参加人数：32人

自主防災組織	配備職員	防災対策課員
26人	2人	4人

### 防災訓練の内容とポイント

コロナ禍でも開催できるように訓練内容や参加者を検討し、次の訓練を実施しました。

#### ①防災クロスロード（対象：防災関係者）

進行役は防災部会が担当し、自主防災組織及び配備職員のメンバーが5グループ（1グループ5名程度）に分かれ、90分で10問を実施しました。各団体の居住環境や防災部員の環境によりクロスロードの考え方が異なる事にポイントを置き、少数意見を重視した訓練としました。少数意見については、会場全体に向けて発表し、共有しました。大型犬の避難に関する問題では、飼い主の目線と避難所運営の目線で意見が分かれ、防災対策課にペットの避難対策について伺いながら、意見交換をしました。

#### ②情報受伝達訓練（対象：防災関係者）

鶴嶺西コミセンと各自治会の防災拠点間での情報受伝達訓練を実施しました。距離の遠い自治会の拠点とも送受信ができるかを確認しました。

#### ③地震体験訓練（起震車）

（対象：一般住民（防災関係者含））

少しでも住民が参加できる訓練になるよう、起震車を用意しました。事前に防災訓練のチラシを回覧し、一般参加者へ周知しました。



### 防災訓練の感想

クロスロードでは、訓練会場の雰囲気は良く、活発な意見交換ができたため、様々な意見や価値観を参加者同士で共有することができました。次年度の防災部会は風水害をテーマに活動する予定のため、それに沿った訓練を企画したいです。

## 8 松林地区防災訓練

### 安否確認訓練、防災施設見学・体験

地区名：松林地区

日付：令和4年11月23日（水・祝）

会場：各自治会、松林中学校

参加人数：70人

自主防災組織	教職員	配備職員・衛生課員	防災対策課員
58人	1人	5人	6人

#### 防災訓練の内容とポイント

午前中は自主防災組織ごとに安否確認訓練を実施（別日に実施した組織含む）しました。安否の確認は、玄関前にプレートを掲示するなど方法は様々で、拠点で集約した確認結果をトランシーバーを通じて本部に報告しました。松林地区は定期的にトランシーバーのロールコール訓練を実施しているため、取扱いは慣れており非常にスムーズでした。

午後は松林中学校を会場に防災倉庫の見学、起震車・濃煙体験、自然災害体験車及び降雨体験車に乗車。また、災害時におけるペットの避難ブースにて避難時に必要な対策を学びました。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、参加人数を限定しての実施でしたが、各自主防災組織の防災意識の向上につながりました。



#### 防災訓練の感想

朝から冷たい雨が降る悪天候でしたが、全自治会の協力で予定していた訓練は滞りなく進めることができました。一部事前の準備と異なった点もあり反省点を含めて次年度の訓練に生かしていきたいと考えております。訓練場所を提供していただいた松林中学校様、参加された自治会会員・防災対策課職員・配備職員、国土交通省職員・松林中教頭先生に御礼申し上げます。ありがとうございました。



## 9 小和田地区防災訓練

### 避難所開設・資機材取り扱い訓練

地区名：小和田地区

日付：令和4年10月16日（日）

会場：小和田小学校

参加人数：97人

自主防災組織	教職員	配備職員	防災対策課員
79人	2人	8人	8人

#### 防災訓練の内容とポイント

市が作成した「避難所運営マニュアル」をベースに訓練の計画を作成し、小和田地区として初めて避難所開設訓練を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、訓練参加人数は限定して実施。初めての訓練内容であるため、事前に訓練参加者へ説明会を実施し、参加者の意識の共有を図りました。「避難所開設セット」は、訓練直後に災害が発生し使用できなくなる事態を回避するため、避難所開設セットの複製を準備し活用するなど、工夫を凝らしました。

資機材取り扱い訓練は、パーテーション及び多目的簡易ベッドを体育館内に複数用意し、組み立て方法などを習得しました。



#### 防災訓練の感想

今回の防災訓練は、「避難所開設・資機材取り扱い訓練」として、市のマニュアル通りに企画・立案し実行してみました。結果は各人により評価はバラバラですが、多くの問題点が浮き彫りにされたという点では一致しているでしょう。

訓練そのものとしての評価は、不備が多かったため低いものであっても、マニュアルを「絵に描いた餅」とせず、実際の被災時に役立つものに仕立て上げるためのステップと見れば、満足のいく結果であったと思います。



# 10 松浪地区防災訓練

## 仮想避難所モデル展示

地区名：松浪地区

日付：令和4年11月20日（日）

会場：松浪小学校、松浪中学校

参加人数：396人

自主防災組織	教職員	配備職員	防災対策課員
368人	5人	16人	7人

### 防災訓練の内容とポイント

松浪地区は新型コロナウイルス感染症の影響で会場を松浪小学校、松浪中学校に分散して防災訓練を実施しました。また、各自主防災組織の集合時間を調整することで多くの方に訓練へ参加していただくことができました。

仮想避難所のモデル展示を行う際に、配備職員と地区の実行委員が協力し合い、展示する資機材の組み立てを行いました。また、訓練中は配備職員と実行委員が資機材の説明を行うことで資機材に対する知識・技術の習得になりました。会場内は資機材の展示の他、一家族の居住スペースを区画割りすることで実際の避難所をイメージできるようなレイアウトを行いました。仮想の避難所を実際に見ることで各家庭での備えの見直しや防災に対する意識付けにつながった訓練だと感じました。



### 防災訓練の感想

今回の地区防災訓練は、コロナ禍の中、「3密」を避けることを課題に計画をしたため、小規模、短時間の訓練で参加者が納得するかどうか気になりましたが、かえって避難所のイメージができ概ね好評でした。また、防災対策課職員、配備職員皆さんが全面的にバックアップをしていただけたのも成功した要因だと思います。

# 1 1 浜須賀地区防災訓練

## 防災イメージトレーニング

地区名：浜須賀地区

日付：令和4年11月12日（土）

会場：浜須賀中学校

参加人数：45人

自主防災組織	教職員	配備職員	防災対策課員
40人	1人	2人	2人

### 防災訓練の内容とポイント

浜須賀地区は新型コロナウイルス感染症の影響で参加者を制限して防災関係者を対象とした組織活動を促進するための防災訓練を実施しました。今までは地区内の避難所ごとに防災訓練を実施していたため、地区内の防災関係者が一度に合同で実施することはありませんでした。今回の防災訓練は防災関係者の顔合わせも兼ねて、地域の災害リスクをイメージし、その効果的な予防策や必要な備えを検討するグループワークを実施しました。防災訓練中は防災イメージトレーニングだけでなく、各地域の悩みを共有することや防災に関する取り組みを情報交換でき、とても有意義な訓練でした。大災害が発生した場合は行政だけでは被災者を支援できません。地域住民が助け合って様々な困難を乗り越える必要があります。そのためにも、浜須賀地区が一体感を持って防災活動に取り組んでいく必要があると考えております。



### 防災訓練の感想

12自治会役員、防災部会員、防災リーダーが地震映像を観た。グループに分かれ、大地震発生時に「何が起こるか」⇒「対策は？」をカード型の付箋に自由に書き上げた。各グループ代表者が発表し、全員が共有した。従来の集合訓練とは異なり研修に近い方法ですが「頭の体操」にもなり、各自治会でも取り組みたいと感じた。

# 1 2 湘北地区防災訓練

## 安否確認訓練

地区名：湘北地区

日付：令和4年11月27日（日）

会場：地区7自治会

参加人数：4,309世帯（地区全体8,176世帯）

自主防災組織	自治会員他
約40人	4,309世帯

### 防災訓練の内容とポイント

従来の啓蒙的防災訓練から、より現実に近い訓練への移行を目的とし、地区全体に共通する訓練項目を検討した結果、安否確認訓練と情報伝達訓練を行いました。訓練内容と方法を検討するにあたり、各自治会の自主防災担当者の顔合わせからスタートしました。各自治会毎に安否確認訓練を実施していますが、訓練日や訓練内容、集計方法等が異なり、また、トランシーバーの使い方や使用チャンネル決め、通信確認を行ったりと、確認事項が多いことがわかりました。

そこで、今年度は各自治会毎の方法で実施し、問題点を抽出することとしました。結果としては、地区全体の平均参加率が52.7%、自治会別としては33%～88%とバラツキがあり、全体の参加率向上と共に低い自治会の底上げが必要となりました。また、トランシーバーについても、湘北地区と茅ヶ崎市役所間で通話できたが、地区内中階層の建物近くでは通話ができない等の問題がありました。



### 防災訓練の感想・意見・気づき

- 各自治会の訓練内容を見ると、安否確認が目的のようになっており、一人でも多くの人命を救うため、安否確認後の救出・救護・避難に繋げる訓練が必要と感じました。
- 情報伝達ツールとしてのトランシーバーの使用について、災害時の混信防止のため、地区毎のCH割り当てや使用時間割等について茅ヶ崎全体で取り組むべきと感じました。



# 1 3 小出地区防災訓練

## 安否確認、起震・煙体験、消火訓練など

地区名：小出地区

日付：令和4年9月15日（木）～11月30日（水）

会場：各自治会、小出小学校など

参加人数：344人

自主防災組織	消防職員・消防団員	配備職員	防災対策課員
330人	12人	一人	2人

### 防災訓練の内容とポイント

小出地区は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策及び各自主防災組織の自主性を育むため、自主防災組織ごとに分散して訓練を実施しました。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で防災訓練が中止であったため、地域住民の防災意識そのものが薄れてしまっているのではないかと危惧していました。

そこで、自主防災組織ごとに「自分が暮らす地域の災害リスクはなにか」を考え、それぞれが訓練内容を企画し実施することにしました。その結果、各自主防災組織が抱える課題の抽出及びそれに対する対策を確認することができ、非常に有意義な訓練を実施することができました。



### 防災訓練の感想

・今回は事前に自主防災組織会長（自治会長）に声かけ・訓練の必要性を説明した結果、各自治会が自覚を持って訓練を計画し実施することができた。また訓練結果を発表する場（11月27日）を設けたことにより、地域で情報を共有できた。

・実際に「燃える火元」の消火訓練、煙、起震車の体験等を実施した自治会は参加者の大半が初体験とのことで、好評のうちに無事終了できた。

## 防災訓練ポイントBOOK

---

発行日	令和4年2月 初版 令和5年3月 更新
発行	茅ヶ崎市
編集	市民安全部防災対策課
電話	0467-82-1111
メール	bousai@city.chigasaki.kanagawa.jp